



名古屋港

名古屋港を守る壁として、かつて沈下まで防波堤は築田堤、中央みでい。名古屋の川崎町堤、知多堤からなる全長7.6km、伊勢湾准教授(海岸工学)は台風後の一九六四年に「防波堤が津波を多々建設された。高さには、波の一・五二・五倍だが、経年、倍の高さが必要と指摘による自然沈下で最大、幅の中央防波堤は、東海地震など起、南海の三連動地震は、地盤が液状化が起きる場合、名屋

液状化 地盤沈下で 効果に疑問

港周辺は高さ一三層考慮しておらず、十分に津波対策に、必ともそれ負担を津波が届くと想定。な強度があるかは疑問、要な防波堤の強度や高余儀なくされる。津波が沈下を懸念する。だが、老朽化が進んで堤の検定着手。河村 組合の担当者は「防波堤は当然重要だが、補強工事のめどが立っていない中では、住民は、風や大雨で水位 災害は通ずる、実現と、確実にでき、かつ一時的な高潮用にて、名古屋を名古屋港のめどは立っていない」と話している。(伊田千秋)

岩手・旧田老町 津波死者 10分の1に



壊れた防波堤 岩手県宮古市田老

総延長2433メートル「万里の長城」大破

巨費投入も 防ぎきれず

万里の長城。高のほろ岩手県の旧田老三十村(海抜、総延長)現宮古市田老の長千四百三十三に、防波堤は地元を呼ばれた。だが、高まった中だった。波でも十分の二の百八

旧田老町を襲った地震

発生日	震源地	震度
1866年 6月15日	明治三陸地震	8.2
1933年 9月3日	昭和三陸地震	8.1
2011年 3月11日	東日本大震災	9.0

マウニチュド	津波高
1934~57	1350m
1962~65	582m
1973~78	501m

防波堤の概要	全長
① 1934~57	1350m
② 1962~65	582m
③ 1973~78	501m

注：高さすべて10m



津波は防波堤を破壊し、住宅地へ流れ込んだ。東から来た津波は、田代川水門に当たり、北へ流れを変えて進んだ。

三百の津波は「長 地方の熱意と二年月、だが、東日本大震災 十七人亡くなる。田老の元副山本長も、海防施設を使う企 城を乗り越した。うは田老町工事費を、伊勢湾は田老港南側の 総計六千五百万を、全面負担、住民は建設 田代川水門はつた、 づいてはなかったが、このために私有地を二割、はね返り、向かい側 の五百八十一の防波 八十二、五百一十の 防波堤は無力ではない、が子供の負担にまで 振興課長、大下哲雄 成、七八年までに百り さん心は言。 旧田老町の防波堤 一本も完成した。一本 かつた。田老町は、二一 設は一九三三年の昭和 目的にたがった事一九六六年の明治三陸二 三陸地震の津波、高さは千九百四十、二四 地盤の津波、高さは千九百四十、二四 〇〇)を受け、翌年 年度の職員平均年齢は、千八百五十九人の死者 度が始まった。世界恐 四十四、物価が、行方不明が、 備に不足と不作の 機する現代では、今回は二〇の津 大水深三層は、三 記録。今回は高さ三 防波堤で大破た が、市の推計によら と、市内への到着六 分遅らせ、津波の高さ も八層に減らす効果は あった。 市内の死者は八百八 十二人、行方不明者は 二百九十九人、十九日 現在、市は防波堤の 再建を国に求める。住 民の命を守るためだ が、目的はそれだけ ではない。 市港振興課の熊谷 充善課長(右)は説明す る。「防波堤がなくな れば、大手企業は移出 といってしまう。市に 対しては死生問題で す」。住民の高台移転 や避難タワーの新設ら ど総合的に被害を減ら

対策が進んでい ても、海防施設を使う企 業にはやはり防波堤が 必要、以前の建設費千 二百億円を釜石市の人 口で単純に割ると、一 人当たり三百万円の一 算となる。(中村慎一郎)

次回も、車を使った避難について考えます。

家族4人久々そろう

「ただいま」。7月末、東京の体育大学に進学した梨奈さんが帰ってきた。9月末までの夏休み、一家4人は一緒に暮らせる。

両親と妹が避難で各地を転々とする間、梨奈さんも新しい環境に慣れるのに必死だった。寮のルームメイトとの生活時間の違

い、レベルの高い講義と試験…。得意の陸上競技を生かして進んだ道は、戸惑いと刺激に満ちていた。

福島と東京との心の距離も感じた。「原発事故で家族が避難してるんだ」。大学の仲間に打ち明けても、反応の多くは「ふーん、そうなの」。震災から時間がたつにつれ、自分から被災の話はしなくなった。

だから、たとえ大熊町の自宅から100*。近くも離れた仮設住宅でも、ありのままの

いつの日か

原発1*からの避難

—12—

自分でいられる場所は何物にも替え難い。「お母さんのつくった空揚げが食べたいな」。長女の口から出る久しぶりの注文に、台所に立つ幸さんの顔がほころぶ。沙也加さんも、まるで幼い子どもに戻ったように姉とじゃれ合う。新しい仕事に追われる光一さんは、時間があれば梨奈さんを犬の散歩に誘う。

いつもの家族旅行も、お盆の墓参りもできない夏だが、家族のきずなまでは変わら

なかった。

そんな一家に、また新たな知らせがやって来た。原発3*。圏内の一時帰宅が始まるというのだ。

福 (はなわ) さん一家 原発事故で福島県大熊町から避難。光一さん (43) と妻幸さん (43)、次女沙也加さん (15) は豊田市で暮らし、会津若松市に移った。長女梨奈さん (18) は東京で大学生生活。